

「玲和」に思う

校長 檜尾 尚樹

本高生の想像力と感性が遺憾なく発揮される「玲瓏祭」。今年のテーマは「玲和 ～和を以て奏で合う～」です。

5月1日から元号は「令和」となりました。万葉集、梅の花の宴から引用され「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ出され、明日への希望を咲かせる国となる」よう願いが込められています。「令」を「玲」とすることで「玲和」は、校標「玲瓏同氣」の意味する清らかに澄んだ玉同士がふれ合って美しい音を奏でる様子も表します。

本荘高校はこれまでの117年という長い歴史の中で、学業や部活動、学校行事に全力で取り組む生徒が集う学舎となってきました。生徒達はお互いの個性を尊重しながら切磋琢磨し、人格を高めあってきました。今年のテーマはまさに伝統ある本荘高校にふさわしいものと考えます。

この祭典のために、本高生は多くの時間とエネルギーを注いで準備を進めてきました。個性豊かな生徒達による和を以て奏でる音がどのように表現されているか、皆様どうぞゆっくりご観賞ください。